

## 道内観光産業経済効果調査の推計結果について (新型コロナウイルス感染症が及ぼす北海道観光への影響について)

公益社団法人北海道観光振興機構(会長 小磯 修二)では、令和3年度に実施した道内の観光産業経済効果調査(北海道来訪者満足度調査の中で実施)の推計結果をこのほど取りまとめましたので、お知らせします。

※なお現時点で令和3年度第4四半期(R4年1月～3月)の観光客数が未確定であるため、本報告は暫定版とします。

### 【令和3年度・北海道観光産業経済効果調査推計結果(暫定版)】

#### 1. 概要

- 総観光消費額は 5,481 億円と前年度の 4,354 億円から 1,127 億円増加(+25.9%)したものの、コロナ禍前の令和元年度 1 兆 5,159 億円からは 9,678 億円の大幅な減少(▲63.8%)となり、依然として厳しい状況にある。
- 総観光消費額が増加したことに伴い、経済波及効果(生産誘発額)は前年度の 6,364 億円から 7,100 億円に増加(+11.6%)するも、令和元年度の 2 兆 1,910 億円からは 1 兆 4,810 億円減少(▲67.6%)したことになる。
- 観光産業における雇用誘発効果(新規)は、実態経済(新型コロナウイルス感染拡大)において雇用調整が進んでおり参考値とした。(令和3年度は約 6.1 万人、前年度は約 6.2 万人)

#### 2. 新型コロナウイルス感染拡大による影響について

今回調査を実施した令和3年度は、依然として新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置といった行動制限の発令が全国各地で繰り返されていた。

そのような状況において、総観光消費額や経済波及効果は令和2年度と比較するとやや改善したものの、コロナ禍前の令和元年度からは遠く及ばない結果となった。

観光産業における消費活動は、道内のサービス業や宿泊業、運輸、商業、食品製造業など様々な産業に幅広く波及しており、同年度の総観光消費額の大幅な減少は、地域経済にとって大きな損失であると言える。

※本調査結果は、令和4年3月にまとめた調査結果を令和3年度観光入込客数調査(令和4年6月北海道経済部観光局発表)等の公表値を参考に、6月上旬時点で再精査した結果です。

※令和3年度北海道来訪者満足度・観光産業経済効果調査の全体版(令和4年3月時点)については、観光機構の公式サイト「北海道の観光統計データサイト」にも公表しています。また、「北海道の観光統計データサイト」では過去の同調査の調査データを表やグラフで公表しています。

<https://statistics.visit-hokkaido.jp/pdf/> 「北海道来訪者満足度調査報告書」

<https://statistics.visit-hokkaido.jp/graph/#category--economic-spillover> 「経済波及効果の推計」

※詳細については別紙のとおりです。

<調査の概要(令和3年度北海道来訪者満足度・観光産業経済効果調査)>

- 目的:道内における観光による消費規模の実態及び観光消費がもたらす北海道経済への波及効果を分析し、観光産業の活性化及び(観光)振興を図るための基礎データとして活用する。
- 方法:道内主要観光地及び交通拠点(103 か所)で面接聴取。(※道内、道外客合計 4,034 サンプルを取得。内訳:道内客(1,882)、道外客(2,152)。新型コロナ対策のためQRコードによるWEB 回答も導入)
- 項目:プロフィール(居住地、年代、職業、年収)、旅行形態(日程、人数等)、旅行内容(消費額、観光ルート等)、期待度・満足度等。
- 時期:4期に分けて調査(1期:令和3年6月~7月、2期:7月~8月、3期:10月~11月、4期:令和4年1月~2月)

《上記の内容で調査を実施した結果、下記の消費額を算出》

消費額(一人当たり単価、内訳:交通費、宿泊費、飲食費、買物代、娯楽等サービス費、その他)  
単位:円

年度	道内客		道外客		外国人
	日帰り客	宿泊客	日帰り客	宿泊客	
R3年度	6,085	27,826	16,044	81,574	-
R2年度	6,012	26,985	67,733 ※		-
増減	73	841	-	13,841	-
参考:R元年度	8,120	32,594	70,733 ※		138,778

注1)訪日外国人観光客は調査期間において入国制限中のため、調査未実施。

注2)本消費額単価は、アンケートで回答を得た単純集計による消費単価ではなく、パッケージ料金に含まれる飲食、宿泊、交通費などの道内留保分も含めた「経済波及効果(推計)」に用いる最終投入単価の数値である。

※令和2年度、令和元年度の道外客については日帰り・宿泊の区別をしていない。

① 総観光消費額

～前回調査(令和2年度)との比較。参考としてコロナ禍前の令和元年度も記載

■道内観光総消費額		年度	道内客				道外客			外国人	合計
			日帰り客	宿泊客	その他	合計	日帰り客	宿泊客	合計		
A	年間観光客数 (推計) 単位:万人	R3年度	2,649	577	90	3,316	10	258	268	0	3,584
		R2年度	2,545	464	90	3,099	-	211	211	0	3,310
		増減	104	113	0	217	-	-	57	0	274
		R元年度	3,629	972	268	4,869	-	-	607	312	5,788
B	道内観光消費額単価 (推計用調整値)1人 単位:円	R3年度	6,085	27,826	15,853	-	16,044	81,574	-	0	-
		R2年度	6,012	26,985	15,853	-	-	67,733	-	0	-
		増減	73	841	0	-	-	13,841	-	0	-
		R元年度	8,120	32,594	15,853	-	-	-	70,773	138,778	-
C	道内観光総消費額 (A×B) 単位:億円	R3年度	1,612	1,606	143	3,360	16	2,105	2,121	0	5,481
		R2年度	1,530	1,252	143	2,925	-	1,429	1,429	0	4,354
		増減	82	354	0	435	-	-	692	0	1,127
		R元年度	2,947	3,168	425	6,540	-	-	4,296	4,323	15,159
構成比(%)	R3年度	29.4%	29.3%	2.6%	61.3%	0.3%	38.4%	38.7%	0.0%	100.0%	
	R2年度	35.1%	28.8%	3.3%	67.2%	-	32.8%	32.8%	0.0%	100.0%	
	R元年度	19.4%	20.9%	2.8%	43.1%	-	-	28.3%	28.5%	100.0%	

※四捨五入の関係で各項目と合計額が一致しない場合がある。

※年間観光客数の推計方法について

令和3年度第3四半期迄(4~12月)は、北海道経済部観光局が令和4年6月迄に公表した「令和3年度観光入込客数調査」を用いて試算。未公表の第4四半期(R4年1月~3月)については、「輸送機関別来道者数調査」(当機構)、「宿泊旅行統計調査」(観光庁)、「V-RESAS」(内閣府)の「移動人口動向」等を参考に推計値を設定。

② 観光による経済波及効果

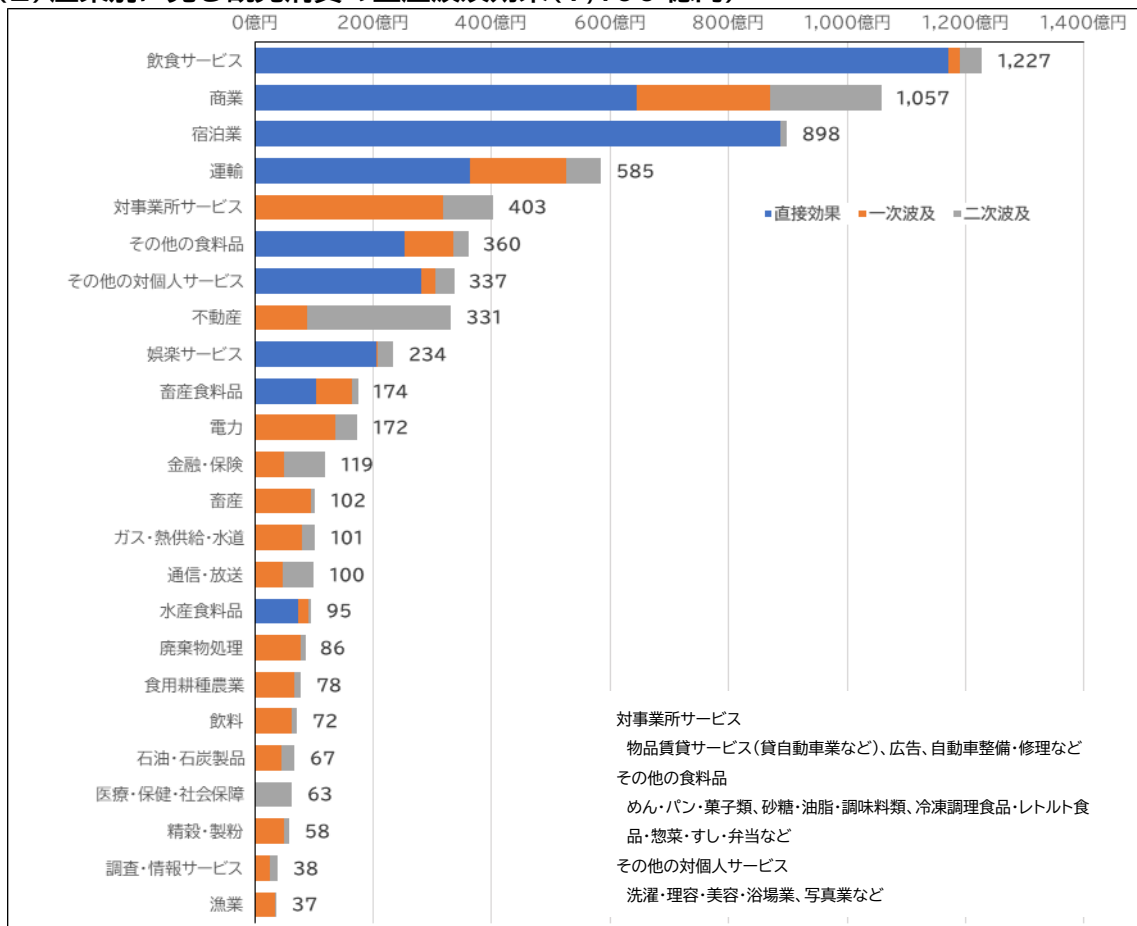
～前回調査(令和2年度)との比較。参考としてコロナ禍前の令和元年度も記載

(1) 観光総消費額 5,481 億円による経済波及効果の推計結果

項目/年度	令和3年度	令和2年度	前年度比(%)	令和元年度
経済波及効果 (生産誘発額)単位:億円	7,100	6,364	111.6%	21,910
新規雇用者誘発数 (単位:万人)	6.1	6.2	99.1%	21

※経済波及効果(生産誘発額)は、観光消費による直接効果 3,984 億円(道内客 2,402 億円、道外客 1,582 億円)と、第一次間接効果 1,964 億円(道内客 1,181 億円、道外客 784 億円)、第二次間接効果 1,152 億円(道内客 702 億円、道外客 450 億円)の合計額からなる。

(2) 産業別に見る観光消費の生産波及効果(7,100 億円)



観光消費が道内の産業別においてどれだけの経済効果をもたらしているかを示すグラフである。(平成27年度北海道産業連関表(北海道開発局)64部門表を用いた推計値。金額の大きい順に並べ替え、上位 24 部門を掲載)

飲食サービスの 1,227 億円を筆頭に、商業 1,057 億円、宿泊業 898 億円、運輸 585 億円と続く。

64 部門のうち 15 部門において 100 億円以上を計上していることに加え、多岐にわたる産業に幅広く経済効果が波及していることが分かる。

またコロナ禍前の令和元年度に計上した総観光消費額 1 兆 5,159 億円は、北海道の地域内総生産(GDP)の 8%弱を占めており、観光産業がいかに北海道経済を支える基幹産業となっているかを物語っている。

このことから、令和元年度と比べ令和3年度の総観光消費額が 1 兆円近く減少したことは道内経済にとって大きな損失と言え、令和 4 年度以降道内観光需要の早期回復が待たれるところである。

## &lt;調査から見たコロナ禍における北海道観光への影響について&gt;

今回北海道来訪者満足度調査を令和3年6月から令和4年2月まで実施したが、コロナ禍前の令和元年度と、コロナ禍以降の令和2年度との傾向の変化などで際立った項目のみ抽出し考察を行った。

(数値は令和元年度→令和2年度→令和3年度の順に記載している)

- ①旅行者の年齢について:60歳以上(高齢者)の旅行者が回復傾向。  
・道内客:25%→18%→23%、道外客:25%→22%→26%  
※前年度は高齢者が感染を回避するため旅行を控える傾向にあったが、回復しつつある。
- ②旅行の同行者:道内客は夫婦(パートナー)による旅行が増加し、依然高い水準で推移。  
・道内客:27%→42%→39%  
※旅行中の感染を回避するため身内だけで行動する傾向が継続している。
- ③旅行の同行者:道外客は前年度比一人旅が減少する一方、3~4人の割合が増加。  
・道外客(一人旅):28%→40%→34%、道外客(3~4人):17.0%→12.2%→16.1%  
※コロナ禍が長引き、友人・知人等での旅行を再開している観光客も増えてつたと推測。
- ④訪問先:「札幌」への訪問が大幅に減少していたが回復。  
・道内客:35%→21%→34%、道外客:65%→51%→59%  
※前年度は札幌市内の新型コロナウイルス感染拡大、GOTO トラベルなどの需要喚起策での札幌市内除外等の影響により減少したが、回復している。
- ⑤宿泊日数:道外客は長期化の傾向が続いている。  
・道外客:3.68泊→4.52泊→6.28泊  
※コロナ禍で旅行回数が減少している分、一回あたりの宿泊数が増加していると推測。
- ⑥宿泊施設の種類:道内客、道外客ともにキャンプ場・キャンピングカーが増加傾向。  
・道内客:2.9%→2.5%→10.6%、道外客:1.5%→1.4%→7.4%  
※「密」を避ける傾向にあることと、昨今のアウトドア人気の高まりと推測。
- ⑦国内での移動手段:道外客の自家用車・レンタカー利用が増加傾向。  
・道外客:38.4%→45.9%→57.2%  
※「密」を回避するため、公共の交通機関を利用しない傾向が継続している。
- ⑧旅行総予算:道内客はコロナ禍以降減少傾向だが、道外客は増加傾向。  
・道内客:20千円→14千円→15千円、道外客:77千円→78千円→96千円  
※道外客は宿泊数の長期化により予算額も増えているものと推測。
- ⑨コロナ禍での観光・旅行:道内客は「日帰り・近いところ」中心、道外客は「旅行の回数を減らす」の伸びが顕著。(令和2年度との比較)  
・道内客:「日帰り中心(31.0%)」が5.6ポイント増、「近いところ中心(41.9%)」が5.5ポイント増、道外客:「回数を減らす(38.2%)」が7.2ポイント増  
※コロナ禍における旅行形態の変化がさらに顕著になっている。

## &lt;所感&gt;

R2年度の傾向が継続している項目(②、⑤、⑦、⑧、⑨)や、逆にコロナ禍前のR元年度に戻つつある項目(①、③、④)、R3年度で特徴的な数値を示した項目(⑥)があり興味深く、今後も調査を継続しコロナ禍による影響の推移を見守っていきたい。

※道政記者クラブ、経済記者クラブに投げ込みしております。

## &lt;報道関係の皆様へのお願い&gt;

標記内容について、貴媒体にてご掲載いただけましたら、お手数ですが、下記事業担当者もしくは広報用メールアドレスまで掲載紙面等を共有いただきますと幸いです。

## &lt;本件に対するお問い合わせ&gt;

(公社)北海道観光振興機構 総務企画本部 政策・マーケティング部  
(堀、佐々木(忍)、生川) [n\\_hori@visithkd.or.jp](mailto:n_hori@visithkd.or.jp)  
札幌市中央区北3条西7丁目1-1緑苑ビル1F  
電話:(011)231-6736

## &lt;その他広報に関するお問い合わせ&gt;

広報用メールアドレス [press@visithkd.or.jp](mailto:press@visithkd.or.jp)

